

令和4年度 事後評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	一般国道 309号（河南赤阪バイパス 1期・2期区間） 道路改良事業																											
担当部署	都市整備部 道路室 道路整備課 建設グループ（連絡先 06-6944-9276）																											
事業箇所	南河内郡河南町神山～芹生谷																											
事業目的及び事業内容	<p>【事業目的】 本路線は、大阪府の南東軸を形成し、奈良県とを結ぶ重要な府県間道路である。本バイパスの整備により奈良県との連携など広域的な幹線道路ネットワーク機能を強化し、沿道地域の発展に寄与する。 また、並行する現道は、広域緊急交通路に位置づけられているが、狭隘部や線形不良区間が多くあるため、本路線の整備により災害時の緊急車両用道路等の機能を確保する。</p> <p>【事業内容】 道路築造 事業延長：約 1.5km [1期区間：約 0.8 km、2期区間：約 0.7km] 道路幅員：21.0～24.0m 車道：4車線 [3.25m×4] 自転車歩行者道：両側 [2.75m×2] ※3期区間は事業休止中（H25年度審議会にて報告済み）</p>																											
関連事業とその現状	-																											
社会経済情勢の変化	<p>【本路線の状況】 平成 17年 3月 1期区間 供用開始（暫定 2車線） 平成 25年 4月 1期区間 供用開始（4車線） 平成 30年 3月 2期区間 供用開始 〔供用後交通量〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>平成 11年(センサス)</th> <th>平成 31年 1月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国道 309号(旧道)</td> <td>12時間交通量</td> <td>2,939台 (19.5%)</td> <td>2,809台 (9.5%)</td> </tr> <tr> <td>柏原駒ヶ谷千早赤阪線</td> <td>12時間交通量</td> <td>6,412台 (11.3%)</td> <td>2,818台 (10.1%)</td> </tr> <tr> <td>国道 309号 (河南赤阪バイパス)</td> <td>12時間交通量</td> <td>-</td> <td>1期区間：5,597台 (16.4%) 2期区間：2,925台 (26.3%)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※（大型車混入率）</p> <p>【交通事故発生状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28年度～平成 29年度</th> <th>平成 30年度～平成 31年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国道 309号(旧道)</td> <td>3件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>柏原駒ヶ谷千早赤阪線</td> <td>26件</td> <td>19件</td> </tr> </tbody> </table>					平成 11年(センサス)	平成 31年 1月	国道 309号(旧道)	12時間交通量	2,939台 (19.5%)	2,809台 (9.5%)	柏原駒ヶ谷千早赤阪線	12時間交通量	6,412台 (11.3%)	2,818台 (10.1%)	国道 309号 (河南赤阪バイパス)	12時間交通量	-	1期区間：5,597台 (16.4%) 2期区間：2,925台 (26.3%)		平成 28年度～平成 29年度	平成 30年度～平成 31年度	国道 309号(旧道)	3件	1件	柏原駒ヶ谷千早赤阪線	26件	19件
		平成 11年(センサス)	平成 31年 1月																									
国道 309号(旧道)	12時間交通量	2,939台 (19.5%)	2,809台 (9.5%)																									
柏原駒ヶ谷千早赤阪線	12時間交通量	6,412台 (11.3%)	2,818台 (10.1%)																									
国道 309号 (河南赤阪バイパス)	12時間交通量	-	1期区間：5,597台 (16.4%) 2期区間：2,925台 (26.3%)																									
	平成 28年度～平成 29年度	平成 30年度～平成 31年度																										
国道 309号(旧道)	3件	1件																										
柏原駒ヶ谷千早赤阪線	26件	19件																										
事業実施による自然環境の変化	・特筆すべき自然環境への影響はない。																											
最終評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	-																											

2 事業効果の分析等

	最終評価時点 H25	事後評価時点 R4	変動要因の分析
事業費	40億円 〔国：22億円、府：18億円〕	39億円 〔国：21億円、府：18億円〕	・事業費精査による減
経過 ①事業期間 ②採択年度 ③着工年度 ④完成年度	① 17年 ② H11年度 ③ H14年度 ④ H28年度	① 18年 ② H11年度 ③ H14年度 ④ H29年度	・用地交渉の難航
定量的効果 (費用便益分析等)	<p>【効果項目】 ・走行時間短縮便益 74.9億円 ・走行経費減少便益 6.2億円 ・交通事故減少便益 0.3億円</p> <p>【分析結果】 ・B/C=1.7 B=81.4億円 C=47.2億円</p> <p>【算出方法】 ・国土交通省「費用便益分析マニュアル」（平成 20年 11月）により算出 ・H17道路交通センサスペースの H42 将来交通推計値により算出</p> <p>【受益者】 ・道路利用者 ・地域住民</p>	<p>【効果項目】 ・走行時間短縮便益 128.1億円 ・走行経費減少便益 10.6億円 ・交通事故減少便益 0.3億円</p> <p>【分析結果】 ・B/C=1.8 B=139.0億円 C=77.0億円</p> <p>【算出方法】 ・国土交通省「費用便益分析マニュアル」（令和 4年 2月）により算出 ・H17道路交通センサスペースの R12 将来交通推計値により算出</p> <p>【受益者】 ・道路利用者 ・地域住民</p>	・基準年と供用開始年度の変更による。
事業効果の定性的分析 (安全・安心、活力、快適性等の有効性)	<p>【安全・安心】 ・災害発生時の広域緊急交通路の確保</p> <p>【活力】 ・地域間交流の強化 ・物流ネットワークの強化</p> <p>【受益者】 ・道路利用者 ・地域住民</p>	<p>【安全・安心】 ・災害発生時の広域緊急交通路の確保</p> <p>【活力】 ・地域間交流の強化 ・物流ネットワークの強化</p> <p>【快適性】 ・車両の走行性の向上により、快適性が向上する。</p> <p>【受益者】 ・道路利用者 ・地域住民</p>	・初期の目的を達成している。
その他特記事項	-		

3 評価結果と今後の同種事業に対する改善措置等

評価結果 (事業効果の発現状況等)	・本事業により、並行する現道の幅員狭小・線形不良等課題のあった区間の大型車の交通量が減少し、通行車両や歩行者等の安全性確保が図られた。 ・広域的な幹線道路ネットワーク機能が強化されることにより、南大阪地域の交通利便性が向上するほか、広域緊急交通路としての機能が向上している。
今後の同種事業に対する改善措置等	-

令和4年度 事後評価 (一般国道309号(河南赤阪バイパス1期・2期区間) 道路改良事業)

